

生成AIデータ検索システム 構築業務調達仕様書

令和7年10月

公益財団法人ふくい産業支援センター

生成AIデータ検索システム構築業務調達仕様書

1. 業務名

生成AIデータ検索システム構築業務

2. 構築の概要

目 的	組織内に散在する各種情報を職員間で容易に検索できるようにすることで、職員内の知識やノウハウ共有を円滑に行い、サービス向上や効率化を図る。
システム要求	1. プログラミングスキルが不要なノーコードで利用できる生成AI技術を活用する。 2. チャットボット機能により簡易な検索や最小限の入力で、最適な回答を求められることとする。 3. 対応データを随時取り込み、自走していくシステムで、メンテナンスやバージョンアップも職員が簡易な操作で対応できるものとする。 4. サーバーは国内に構築し、セキュリティに配慮したシステムとする。 5. その他詳細は仕様書別紙1を参照する。
業務要求	蓄積されている相談対応に関する膨大なデータを取り込むことにより、多種多様な相談における対応策を導出する。 ○ 企業からの経営相談や補助金情報等の問い合わせに対して、専門的な知識を持っていない職員でも対応できる（知識の平準化） ○ 規程の参照や業務引継ぎの際に、担当職員に個別に指導や指示を受ける必要がなくなる（業務の属人化からの脱却） その他、当センターの業務の中で想定される具体例は仕様書別紙2を参照する。 ※注：仕様書別紙2の列挙事項については個々の実現可能性について企画提案書の中で説明すること。
その他留意事項	○ 読み込ませるデータの個人情報の秘匿に関する処理を行うこと。 ○ 事前に支援センター各署および職員からの要望をヒアリングし、最大限対応すること。 ○ 仕様記載事項以外で効果が見込める機能があれば積極的に提案すること。

3. 業務の範囲

- ①システム企画
センター職員と協議の上、目的を達成するために最適なシステム構成を作成する。
- ②更新作業等のマニュアル作成
個々の職員が自由にデータ更新等ができるよう、マニュアルを作成する。
- ③システム要件
機能要件やシステム構成、基本要件については別紙のとおりとする。
- ④職員向け研修および個別相談対応
職員向け生成AIデータ検索システムの操作能力向上を目的とし、複数回の集合研修またはオンライン研修を行う。
その後、操作方法や活用等について個別相談に対応する。
- ⑤保守維持・改修
必要に応じた保守および改修に対応すること。

4. 履行期限

令和8年3月13日（金）17時

5. 履行場所

公益財団法人ふくい産業支援センター One to Oneサービス推進部
（坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16 福井県産業情報センター3階）

6. 全体スケジュール

- 令和7年11月10日 選定会（プロポーザル）
11月中旬～ 契約、打合せ
開発・テスト
- 令和8年2月6日 システム導入
2月13日～ 職員向け研修
3月13日 検収

7. 成果品等

成果品として納入するものは以下のとおりとする。

成果品	部数
生成AIデータ検索システム運用プログラム、運用に係るコンテンツ	1 式
基本・詳細設計書	1 部
テスト結果報告書	1 部
業務完了報告書	1 部
操作マニュアル（管理者および利用者向け）	1 部

8. 検収方法

完成検査

- ・生成AIデータ検索システム稼働後、職員向け研修を実施したのち、産業支援センター担当職員の検査をもって検収とする。
- ・完成検査において指摘があった場合には、担当職員の指示に従い、必要となる処置を施すこと

9. その他

本仕様書に記載のない事項は、センター職員と協議のうえ対応を決定する。

なお、企画提案書における評価に際しては、開発体制や円滑な運用、保守体制などの基本的な項目以外に、特に下記の点を重視する。

要求内容の充足度	個々の要求事項を満たしているか
要求に対する柔軟性	当センターの要望に迅速かつ誠実に対応できるか
業務の理解度	当センターの事業概要や業務内容について理解しているか
顧客志向	当センターが想定していない機能の提案があるか

以 上

機能要件

ID	機能	要求事項
01	チャットUI	PC／スマホ両対応・ファイル添付、画像認識・診断可能
02	多言語	日本語以外の複数言語でも利用可能であること
03	RAG (<i>Retrieval-Augmented Generation</i> : 検索結果を生成AIに与えて事実性を高める方式) 検索	データを追加できること
04	RBAC (<i>Role-Based Access Control</i> : 役割に基づく権限管理)	Admin／Editor／Viewer の3ロール
05	監査・統計	会話ログ 365 日保存、使用量のグラフ表示等
06	外部 API	OpenAPI 等の主要APIと連携可能であること

非機能要件

区分	指標	目標
性能	応答時間 (P95)	≦ 4 秒／100 同時リクエスト相当
可用性	稼働率	99.5 %／月 相当

セキュリティ	認証	2FA（二要素認証）や強度 PW相当
監査	ログ保持	365 日（暗号化保存）
拡張性	LLM 切替	APIで複数のLLMに切り替えられること

制約条件

国内サーバーを利用すること

システム構成

層	備考
ネットワーク	セキュリティを考慮すること
アプリ	Web／API／Worker 等
DB	会話・設定・監査ログ等の保管
Vector	類似検索に相当する
キャッシュ	非同期処理相当
監視	Alert機能を考慮すること

基本要件

1. 生成AIベースのチャットボットであること。
(※セキュリティ要件・運用権限を満たすことが前提)
2. ナレッジ登録・編集機能
 - PDF／Word／Excel／PowerPoint／TXT／CSV のアップロード
 - ドラッグ&ドロップで追加、上書き、削除、バージョン管理
 - メタデータ（タイトル・カテゴリ・タグ・公開範囲・更新日）の編集
 - 自動テキスト抽出と RAG*¹ 用ベクトル化はバックグラウンド処理

¹ *RAG (Retrieval-Augmented Generation)* : 検索で抽出した関連文書を Large Language Model へ渡して回答の正確性を高める手法。
3. 回答 UI の表示形式
 - テキスト回答（太字・斜体・リンク・箇条書き・表組み）の装飾
 - 画像・PDF スニペットのインライン表示（プレビュー）
 - 参考文献リンク（ソース URL、ページ／段落番号）を自動付与
4. ファイル送信による質問
 - 利用者が PDF／画像をアップロードし、内容を質問できること
 - アップロード容量上限を明記すること
5. 回答品質管理
 - 不適切表現フィルタリング（OpenAI moderation API または同等）
6. 公開／非公開設定

- ナレッジを複数構築可能であり、公開、非公開設定が可能であること

7. マルチデバイス対応

- PC／スマートフォン両方で UI が最適化
 - PWA 対応によりホーム画面から即時起動
-

管理者機能

- 利用ログ解析機能を備えること
 - 年別／月別／日別／曜日別／時間帯別のアクセス集計
 - 質問数、回答生成回数、ナレッジ参照回数、フィードバック件数を可視化
- モデル利用量管理
 - API 使用トークン数と従量課金額を日次で記録
- ロール管理（RBAC ²⁾
 - Admin／Editor／Viewer／3 役割を設定

²⁾ RBAC (*Role-Based Access Control*) : 役割にもとづき機能・データへのアクセス権を付与する方式。

職員向け生成AIデータ検索システム研修および個別相談対応

職員向け生成AIデータ検索システムの操作能力向上を目的とし、複数回（2時間×4回）の集合研修またはオンライン研修を行う。その後、操作方法や活用等について個別相談に対応する。

業務範囲の具体例

	区分	具体的な内容
1	①組織外部FAQ	・補助金の使い方事例の紹介 過去の相談事例の中から、現在の相談事例に類似する案件を抽出し、どのような補助金が適当か、またその活用方法などについて提案すること。（チャットボットでの活用も想定）
2		・提出された申請書の自動チェック センター補助金などの各種申請書の記載内容が要項に合致しているかや、数値の計算や積算根拠に間違いがないかをチェックできること。
3		・審査会の評点から採択されるポイントや傾向と対策 過去の審査会などの申請書とそれに対する審査員の意見を反映し、申請内容に関するブラッシュアップを行う際に活用できる資料を提示すること。
4	②ドキュメント生成支援	・国市町等補助金の年度ごとの一覧表自動作成 ホームページ上で公開されている補助金情報を検索し、対象要件や補助金額順など一覧表を作成すること。
5		・データベースとなる音声の自動個体識別と発言者の発言内容の正確性の判定 相談内容のデータ源となる音声データを投入する際、誰が相談者で、誰が対応者かを自動で把握するとともに、対応者が複数いる場合、回答内容の正確性を反映すること。
6		・センター補助金説明会のPPT作成 センターのホームページなどから要領、様式を読み込み、説明会用のパワーポイントを自動作成すること。
7		・センター補助金説明会の予想FAQ作成 過去の質疑応答や現在の要領の変更点などから、想定されるFAQを自動作成すること。
8		・事業紹介チラシの作成 担当者が事業の内容や特長、図を読み込ませることで、事業紹介や参加者募集チラシ原稿を作成すること。
9		・センター事業実績の自動集計 相談件数など各担当が持っている、事業実績データを読み込ませることで、任意の様式に基づいた集計を自動で行うこと。